

不具合事例		整理番号 C-01-002	
タイトル	土壌ガス採取孔の穿孔深さが浅い！		
工種	<input checked="" type="checkbox"/> 調査 <input type="checkbox"/> 対策	フェーズ	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 作業中
対象汚染物質	第一種特定有害物質、油類		
土地履歴	<input checked="" type="checkbox"/> 宅地 <input checked="" type="checkbox"/> 工場跡地 <input checked="" type="checkbox"/> 特定有害物質使用工場 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
説明図	<p style="text-align: center;">「深さは0.8から1mだ！！」</p> <p style="text-align: center;">ボーリングバー等</p>		
作業内容	土壌ガス調査		
使用機器	コアカッター、ドリル、鉄棒等（ボーリングバー等）		
不具合事項			
<ul style="list-style-type: none"> ボーリングバーなどを用いて穿孔するとき、土壌が締まっていたり穿孔に時間がかかったり、硬質の物質に当たるなどして、所定の深度で土壌ガスが採取できなかった。 そのため分析結果の正しい評価ができなかった。 			
予防措置(計画者・監督者・作業員)			
<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ土質状況や埋設物に関する既存資料の収集やヒアリングを行い、状況に合わせた穿孔方法や作業時間を検討しておく。(計画者・監督者) 被覆状況（土間コンクリートの厚さ等）や土質状況を適宜確認して、作業体制や作業時間の検討を行う。(計画者・監督者) 硬質の物質に当たり、打撃に対して反発がある場合には、地下埋設物である可能性もあるので、作業を中止して速やかに監督者に報告し、採取孔の位置を変更するなどの対応をとる。(作業員) 採取孔の深さは0.8～1.0 mと規定されているので、それを遵守して作業を行う。(作業員) 			
応急措置			
想定していたものと被覆や土質の状況が異なり、作業の遅延が発生する場合は、早期に監督者に報告する。			
その他、留意事項			
<ul style="list-style-type: none"> 地下埋設物に注意する。地下埋設物に穿孔した場合、地下構造物が破損している可能性が考えられるので、監督者と協議の上、適切な処置を講じる。 採取孔の位置変更や規定の深度以外の土壌ガスを採取する場合は、その旨を記録しておく。 通気性の悪い地盤が採取深度付近に分布し、調査に必要な量の土壌ガス試料が採取できない場合には、必要な限度において採取深度を1mより深くしてもよい。¹⁾ 			
関連法規等、出典	1) 土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン改訂版 p. 149		
キーワード	土壌ガス、試料採取		
発生頻度	<input type="checkbox"/> 多 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 少	重大性	<input type="checkbox"/> 致命的 <input type="checkbox"/> 重大 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微

タイトル	土壌ガス採取孔の穿孔深さが浅い！	
説明図	<p style="text-align: center;">「深さは0.8から1mだ！！」</p>	
作業内容	・土壌ガス調査	
指示事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・打撃しても貫入していかない場合は、作業を中止して監督者に報告すること！ ・採取孔の深さ0.8～1.0 mを遵守すること！ 		
どんな不具合が起こりうるか？		
<p>だから私たちはこうします</p>		
本日の重点施策	ヨシ!!	
サイン		